ミラー合宿報告／蒲郡

2014　Dec. 22-24

愛知県

豊田自動織機海陽ヨットハーバー

ミラー級ワールド／南アフリカ大会 合宿

選手　其田 信一（クルー）
　　荒川　渡　（ヘルムス）
コーチ　荒川 海彦
　　荒川 友紀彦

ヨットとは楽しむもの、しかし、場所と状況によっては より一生懸命に走らねばならない。今回 “其田 荒川”は 南アフリカへの海外遠征にあたり、参加する事に意義があるとの立場で、出場を決めたものの、レース技量は下の下なので、より楽しむために スキルアップを目指して コーチを雇い合宿を行いました。

11月22日（土）

朝8時に集合、恥ずかしながら、まだスピンランを会得していない。そこでまず、スピンの艤装と陸上シュミレーションから取りかかる。

ようやく午後から出艇。

友紀彦は マッチレースの練習で海陽へ来たので、
偶然、荒川家の3人が同じ海面に集まることになった。

同じ日程で、レーザーラジアルの全日本が開かれていた。
参加数は74艇、この日は3～4m の弱風で3レースを消化。

ミラーの合間に海陽海洋クラブの練習も海彦に見て
もらう事に‥　420の乗艇者は本多佑基と倉橋直暉。

11月23日（日）

　この日は、海陽海洋クラブの練習日、琵琶湖に遠征しているメンバーが抜けて、３名が出席。一緒に練習する事になった。

朝のクラブミーティング

海上では強風で、スピンを揚げる余裕もなく、マークの回航練習を行った。　今回の練習に使用したミラーは試作艇で 各部に改善の余地があり、問題を解決しながら乗ってきたもので、これ程の風は初めて。

過去に回転式の木製ラダーストックとピントル金具に隙間を生じたのでボルトで締めて対策したが、ラダーブレードが下がりきらないのでボルトを外した所、調子が悪く、曳航で帰港した。其田さんは小さなビスで ピントル金具とラダーストックを固定、再帆走したが、今度はラダーストックが割れてしまった。

優太

遥希

大成

木製なので強風に耐えられなかったようだ。再び修理、回転式をあきらめ全部をビスで固定して再々帆走。ところが次のトラブルはなんとラダーを流失してしまった。曳航される事３度、ミラーはセールが海上で降せるので楽だ。これで今日の練習はあきらめたが、明日もう一日海上に出たい。なんとか代用品を見つけなくては･･･。
そこへマッチレースの練習をしていた友紀彦が現れた。チームの本拠地は五ヶ所湾、今日は艇を借りての練習で風が強くて借り物の艇を壊すといけないので早く切り上げたとの事。クラブの艇から間に合うものを探すが、レーザー、ホッパーとも無理、ＯＰがガジョンとピントルがミラーと逆なので、ミラーのピントル芯を金具から抜けばそこにＯＰのピントルが入るかもしれない！
こういった仕事は友紀彦の分野だが、ピントル金具から芯だけを抜き取る作業はかなり難航した。

陽の傾く頃、やっとＯＰラダーの取付に成功した。

２人の息を合わせるのは難しい。

11月24日（月/最終日）

ミラーワールドの2007年と2011年のスタートのビデオを息子に見せたところ、「このレベルは相当高いよ。」と言う。 私達の目標は最下位にならない事だったが不安がつのる。懸命に練習するが、情け容赦のない指導の言葉に しだいに腹が立ってくる。「そんなに言うのなら 見本を見せてくれ。」と交代した。するとやはり 私達とは全然違うセーリングを見せてくれてショック。

友紀彦 海彦 組

其田 荒川 組

こうして ３日間のトレーニングも　楽しく終末を迎えた。

微風、強風、艤装のトラブル等々、経験した事は、アフリカで役に立つことだろう。コーチからは出艇する前の段階での艇の準備、スピンコントロールを始め、

あらゆる艤装について 綿密なチェックが必要な事、そして少しでも それを改善する努力。あとはクルーワークがいかに大切な事なのかを教えられ、わかっているようで、具体的にどうしたらいいのかが解っていなかったことを痛感した。
手探りで始めた状態から、やっとセーリングの
手ごたえを感じた合宿でした。

あとがき

ミラーは、国際クラスの中では ＯＰと並び最も手軽で 安全に 初心者でも乗れるヨットとして普及しているクラスです。海に親しみレースと言うよりも、自然を愛する心を尊重する考えに同調しますが、時としてレースもあります。其田さんはセールの選択で 最大値

よりもラフで約70㎜小さく作りました。これが本番で 吉と出るか凶と出るか判りません。しかし身の程に合った マイペースで帆走する事に主眼を置くならば、きっと ミラーの仲間として受け入れてくれると思うのです。